

～公益財団法人市民防災研究所～

A015038

平成24年4月1日設立登記

内閣府認定

1 財団のなり立ちと活動内容



市民防災研究所は、創立者の旗野次郎が小学6年生の時に関東大震災に遭遇し、以来再びあのような悲惨なことがあってはならないと思ひ続け、昭和47年(1974年)、60歳の時に経営していた町工場を長男に託し、私費を投じて「避難研究所」を設立、防災の研究に没頭するようになったのが始まりです。

昭和56年(1981年)4月には「財団法人 市民防災研究所」に改組し、多くの理解者と消防防災関係機関の協力のもと、市民一人ひとりが地震、火災、水害等の災害から命と暮らしを守るための研究と、市民の立場から発想した内容の防災普及活動を行っています。



創立者・旗野次郎

2 考案した防災アイデア

旗野次郎は、“たった一つしかない大切な命は守った人だけが守れる”という教訓から身のまわりにあるものを活用して、だれにでもできる**防災対策を次々と考案しました。**

主な防災アイデアには、どの家庭にでもある身近なものを利用して作れるもので、停電時の明かりを確保するための「**手作りランプ**」やご飯を炊くことができる「**空き缶コンロ**」があります。これらのアイデアは、自治体などが主催する防災フェアに出展するなどして普及につとめています。

東日本大震災で被災された方からは、これらのアイデアが被災生活で役立ちましたと感謝の手紙が届きました。その他、手作りの消火具「**投てき水パック**」や煙からの避難具「**けむりフード**」など、さまざまなアイデアを考案しています。



手作りランプ



空き缶コンロ



3 財団の主な活動

(1) 防災普及活動

市民一人ひとりが災害から命と暮らしを守るために、平常時や災害時にとるべき方策などを普及するために、防災専門家を派遣する「**講師派遣事業**」や防災リーダーを育成する「**防災に関する人材の育成支援事業**」などを通じて、市民の防災力向上に取り組んでいます。



防災講習会

(2) 調査研究



東日本大震災現地調査

調査研究活動として、防災教育教材を開発する「**防災ゲーム研究会**」など3つの専門研究会を設置しています。このほか、災害が発生すると、災害実態を把握するための現地調査や市民の立場から被害を軽減するための方策について調査研究を行い、その成果を防災普及活動に生かしています。

(3) 被災地スタディツアーの開催

被災地を視察し、被災者の方などから直接お話を聞き、災害教訓を学び、次の災害に備えることを目的に「**被災地スタディツアー**」を毎年開催しています。



被災地スタディツアー

